

くすりのしおり

内服剤

2022年07月改訂

薬には効果（ベネフィット）だけでなく副作用（リスク）があります。副作用をなるべく抑え、効果を最大限に引き出すことが大切です。そのために、この薬を使用される患者さんの理解と協力が必要です。

製品名：ザイボックス錠 600mg

主成分：リネゾリド(Linezolid)

剤形：白色～微黄白色の錠剤、長径 18mm、短径 10mm、厚さ 6mm

シート記載など：ZYVOX 600mg、ザイボックス、600 ZYV、ザイボックス 600mg



この薬の作用と効果について

オキサゾリジノン系の抗菌剤で、細菌の蛋白合成の開始段階を阻害することによって、抗菌作用を示します。通常、バンコマイシン耐性エンテロコッカス・フェシウム（VRE）による各種感染症や、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）による肺炎、皮膚感染症、敗血症などの治療に用いられます。真菌やウイルス性の病気には効果がありません。

次のような方は注意が必要な場合があります。必ず担当の医師や薬剤師に伝えてください。

- ・以前に薬や食べ物で、かゆみ、発疹などのアレルギー症状が出たことがある。貧血など骨髄抑制、腎機能障害がある、体重 40kg 未満である。血液透析を受けている。
- ・妊娠または授乳中
- ・他に薬などを使っている（お互いに作用を強めたり、弱めたりする可能性もありますので、他に使用中の一般用医薬品や食品も含めて注意してください）。

用法・用量（この薬の使い方）

- ・あなたの用法・用量は（：医療担当者記入）
- ・成人および 12 歳以上の小児：通常、1 回 1 錠（主成分として 600mg）を 12 時間ごとに 1 日 2 回服用します。
12 歳未満の小児：通常、主成分として 1 回 10mg/kg を 8 時間ごとに服用します。ただし、1 回の服用量は 600mg を超えません。本剤は 1 錠中に主成分 600mg を含有します。
いずれの場合も、必ず指示された服用方法に従ってください。
- ・飲み忘れた場合は、気がついた時にできるだけ早く飲んでください。ただし、次に通常服用する時間が近い場合は飲まずに、次の服用時間から 1 回分を飲んでください。絶対に 2 回分を一度に飲んではいけません。
- ・誤って多く飲んだ場合は医師または薬剤師に相談してください。
- ・医師の指示なしに、飲むのを止めないでください。

生活上の注意

- ・骨髄抑制があらわれることがありますので、定期的（週 1 回を目安）に血液検査が行われます。
- ・アシドーシスがあらわれることがありますので、吐き気、嘔吐の症状が繰り返しあった場合には、ただちに医師に連絡してください。
- ・低ナトリウム血症があらわれることがありますので、定期的に血液検査が行われます。
- ・まれに発熱、腹痛、白血球増多、粘液・血液便を伴う激症下痢を主症状とする重篤な大腸炎である偽膜性大腸炎があらわれることがあります。この薬を飲んでいる間または飲み終わった後 2～3 週間までに腹痛があったり、頻繁に下痢を経験したりする場合は、ただちに医師に連絡してください。
- ・28 日間より長くこの薬を使用した場合、視神経障害があらわれることがあり、さらに視力喪失に進行する可能性があります。視力低下、色覚異常（色を見分けにくい）、霧視（目がかすれる）、視野欠損（視野の中に見えない部分がある）のような自覚症状があらわれた場合は、ただちに医師に連絡してください。
- ・血圧上昇、動悸があらわれることがありますので、チーズ、ビール、赤ワインなどチラミンを多く含有する食品の過量摂取を避けてください。

この薬を使ったあと気をつけていただくこと（副作用）

主な副作用として、出血しやすい（歯ぐきからの出血や鼻血など）・出血が止まりにくい、貧血、下痢、発疹などが報告されています。このような症状に気づいたら、担当の医師または薬剤師に相談してください。

まれに下記のような症状があらわれ、[]内に示した副作用の初期症状である可能性があります。

このような場合には、使用をやめて、すぐに医師の診療を受けてください。

- ・貧血症状（立ちくらみ、頭痛など）、発熱、出血傾向（皮下出血、鼻血など） [骨髄抑制]
- ・吐き気・嘔吐、過呼吸、意識がうすれる [代謝性アシドーシス]
- ・視力低下、色覚異常、かすみ目・見えない部分がある [視神経症]
- ・呼吸困難、全身のほてり、じんましん [ショック、アナフィラキシー]
- ・発熱、咳・痰、呼吸困難 [間質性肺炎]

以上の副作用はすべてを記載したものではありません。上記以外でも気になる症状が出た場合は、医師または薬剤師に相談してください。

保管方法 その他

- ・乳幼児、小児の手の届かないところで、遮光して、湿気を避けて室温（1～30℃）で保管してください。
- ・薬が残った場合、保管しないで廃棄してください。廃棄方法がわからない場合は受け取った薬局や医療機関に相談してください。他の人に渡さないでください。

医療担当者記入欄

年 月 日

より詳細な情報を望まれる場合は、担当の医師または薬剤師におたずねください。また、「患者向医薬品ガイド」、医療関係者向けの「添付文書情報」が医薬品医療機器総合機構のホームページに掲載されています。